



命を守るために大切なことは？

～震災の語り部から学んだこと～

「命を守る講座」の一コマそしてまなびすと研修として淡路島の北淡震災記念公園を訪れた。1995年1月17日5時46分、震度7の阪神淡路大震災の記憶は確かに残っているのだが、いつの間にかその時に感じた、いつ、同じような大災害が我が身にも降り掛かるかもしれないという逼迫した当事者感覚は薄れてしまっているのではないだろうか。そのことを震災の語り部として震災後から活動が続けてきた米山正幸氏は力強く語ってくれた。記憶の継承を大震災に遭って生き延びた者の務めだと彼はいう。災害にあった時には、まずは我が身の命を守る、そして地域のことは地域でやるということが少しでも被害を小さくする減災の基本だという教訓が胸に響いた。

北淡町では震災の直後、建物の下敷きになり38名の方々が亡くなった。これは避けられないものだったが、その後が他の地域とは大きく異なる。地域の消防団員の活躍でその日の午後3時には行方不明者が一人も居なくなったのである。北淡町では隣近所のつながりやプライバシーよりも生命を大切にするという感覚が残っている。瓦礫の中で頭部だけが地面から出ている映像が映し出された時、我々は目を覆ってしまったが、消防団員と地元住民が力を合わせて救出するのだ。公助は期待することは無理だ、まずは地域のことは自分達で何とかするんだという気概があった。

その背景には地域コミュニティの底力があった。北淡町には大人になった証として消防団に加入するという風土が残っている。500人を越える団員が人口約11,000人の町にいるというのは驚きである。新居浜市に置き換えれば5,000人以上が消防団員ということになる。さらに驚いたことに、消防団は45歳で卒業することが決まっているのである。組織の新陳代謝が自動的に進むというのは、今様々な地域や団体で課題となっている後継者不足を解決する妙手であると教えられた。分団長が45歳、そこで退役し、その後も頑張りたいという有志は新人として再入団すること。「私もその一人ですよ」と米山氏に伺い、地域の防災力の厚みを教えられた。

彼の話の中には体験に基づく教訓が幾つも折り込まれていた。当たり前と言われているマニュアルとは違うことが現場では起こること。普通は寝所にはタンスを置かないと言われるが、米山氏は二段のタンスが分かれて倒れ、その空間が出来たことで命を救われたとのこと。未然に備えられることに万端を尽くして、いざという時には臨機応変に出来ることに対応することも教えて頂いた。

新居浜市も南海トラフ大地震がいつ起きてもおかしくない状況にある。その事をきちんと我々は心に刻んでおかなければと再確認できた研修であった。北淡震災記念公園には、大震災の時に動いた野島断層や被災した家屋がそのままに残されている。当日も大阪の小学校の子ども達が見学に来ていた。災害は忘れた頃にやってくるという言葉があるが、我々は災害の記憶を継承することで、防災は叶わないけれど、減災に努めて、命を守る取り組みを丁寧に続けていかなければと学ばせていただいた。淡路島方面にご旅行の際には、ぜひお立ち寄り下さい。





はじめての別子「四阪島クルージングツアー」



9月28日（水）に「はじめての別子銅山」四阪島クルージングツアーを行いました。当日は雨上がりで曇り空でしたが、なんとか開催することができました。

めったに近づけない四阪島を間近に見ることができる機会ということでたくさんの受講生の方に参加していただきました。

日程変更やグループ分けなどご迷惑をおかけした点もあったと思いますが、スタッフ、受講生の皆様のご協力により無事終えることができました。

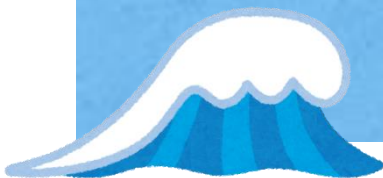
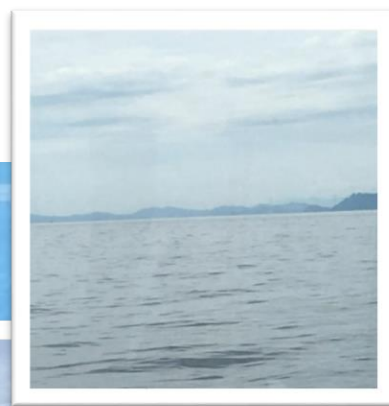
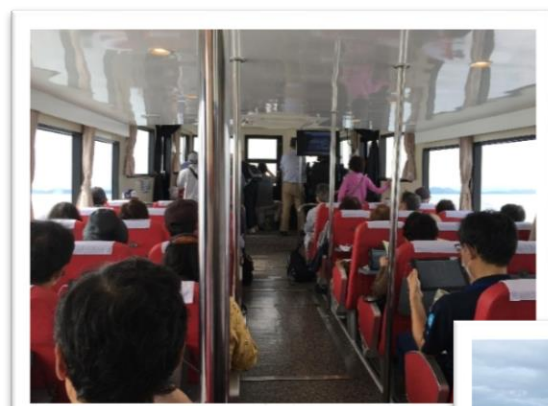
当日は新居浜東港を出発し、大島を経由した後、四阪島に向かいました。

船内では新居浜南高校ユネスコ部の生徒さんたちが作成してくださった映像教材をタブレット端末を用いて鑑賞しました。映像と音声で四阪島の暮らしを学ぶことができました。

港を出港して30分ほど経った頃、正面に四阪島が見えてきました。四阪島の周りを一周すると、見る方角で島の違った表情が見られ、特に新居浜市街からは見られない四阪島の西側・北側の様子が興味深かったです。

帰りは新居浜の工場地帯が見え、海から見た新居浜市の景色を眺めながら残りの船旅を楽しみました。

今年度の「はじめての別子銅山」では新居浜市の街中にある別子銅山ゆかりの地に直接行ってお話をきく講座が多くありました。本講座を受講し、「別子銅山」についてもっと知りたいと思っていただけましたら幸いです。



「私の生涯学習～新・読書のすゝめ～」

No.23

私の生涯学習



いよ本プロジェクト代表

岡田有利子



「人生、一生学びである」



50代前である私がこう思うのは、少し早すぎるかもしれない。しかし、何かを知りたいという気持ち、そして、そこから得たものを活かす日常があれば、いつまでも生き生きとした毎日を送ることができると思う。

ただ、年を重ねるにつれ、私は自らの轍を深くなぞり生きていくように思う。同じ行動、変わらぬ日常、広がらない行動範囲。そこに試行錯誤がなく、決まりきったことを続けていくと、自分の人生はどこか固定化されていく。

しかも、そこから外れることはそう容易ではない。何しろ自分の轍を意識することすら難しい。深まる一方である溝から自然に外れる方法は何だろう。

私は、それには読書が最適だと思っている。本の中には人がいる。共感する思いや支えとなる言葉に読書で出会う。それらが心に落ちる時、あるいは心を耕す時、気が付けば、深い轍から、自分がずっと外れている。

もちろん、実際に人に会うことも同じ。会話や行いから新しい知識や感情を知ると、同様に自分の枠が広がっていく。そして、極めて個人的な作業である読書と、読書自体を語り合う場所があるとどうだろう。「本」と「人」の相乗効果でさらに新しい何かを得るように思う。

そんな活動を私は2019年から伊予市で始めた。ご縁があり、昨年度に続いて、新居浜生涯学習大学でも講座「新・読書のすゝめ」を担当させてもらっている。

「本」と「人」の相乗効果は、読書が目的ではなく、読書から何が始まるかを楽しみにしている。大層なことでも、人と比較することでもない、その人にとっての何かがある。





講座カレンダー



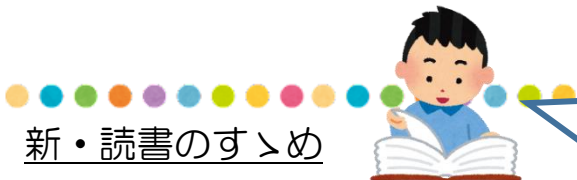
予定のご確認を...

※今後もコロナの影響で日程が変更となる場合があります。

日	曜	講座名	回	テーマ	時間	場所
1	木	◎新・読書のすゝめ	3	持ちより本を紹介しましょ...	13:30	生涯学習センター第1研修室
2	金	学んでマナビィ	—	キャンドルグラスアート④	10:00	生涯学習センター第1研修室
		学んでマナビィ	—	キャンドルグラスアート⑤	13:30	生涯学習センター第1研修室
3	土	松山大学公開講座	9	eスポーツによる地方創生	13:30	生涯学習センター第1研修室
6	火	草木染ストールを染めよう⑥	2	染め重ねに挑戦	13:00	若宮公民館調理実習室
7	水	◎新・雑談しま専科	7	雑談パート③	9:30	生涯学習センター第1研修室
10	土	◎日本文学講座	8	地方游俳としての樽堂一庚...	13:30	文化センター別館視聴覚室
13	火	科学博物館講座	7	俳句の植物	10:00	科学博物館第1研修室
14	水	◎懐かしの心の唄講座	5	童謡、唱歌、ラジオ歌謡な...	10:00	文化センター別館中ホール
		◎人生百年医学講座	5	若々しく生きるためのアン...	14:00	文化センター別館中ホール
15	木	◎世界知トク・なトク講座	4	多文化共生・新居浜と世界...	13:30	生涯学習センター第1研修室
16	金	学んでマナビィ	—	オリジナルアレンジメント	10:00	生涯学習センター第1研修室
20	火	学んでマナビィ	—	ミニ門松作り	10:00	生涯学習センター第1研修室
27	火	◎ワクワク教室	—	正月料理にチャレンジ~白...	9:00	ワクリ工新居浜調理実習室

※◎がついている講座は聴講可能講座です。

※松山大学公開講座の会場は生涯学習センター第1研修室へ変更となっています。



今回「私の生涯学習」のページを書いて頂いた岡田有利子先生に講師をしていただいています！本が好きな方、一緒にお話しませんか？(^-^)

新・読書のすゝめ

「持ちより本を紹介しましょう。テーマは「若い人に読んでほしい1冊」

図書館は本を貸し出すだけの施設ではありません。様々な図書館の取り組みを通して、図書館の楽しみ方をお伝えします。

日時：12月1日（木） 13:30~15:30

場所：生涯学習センター第1研修室

持参物：「若い人に読んでほしい」と思う本

聴講料：300円

～編集後記～

11月に入り、すっかり秋ですね。「秋は美味しい食べ物が多いので食欲の秋だ」と感じている方も多いのではないのでしょうか。寒い冬になる前に人は体温・体力を保つために、冬の準備として秋の段階から食欲が増します。暑い夏でバテた体の不調を戻すために、涼しくなった秋には自然と食欲が増すようになっています。「冬は太る」というのも、秋に食べた分が脂肪となり、ふっくらしてしまうのも原因です。

皆様も食べすぎに注意して元気に冬に備えましょう。